

## 森の専門家にインタビュー！

葉山の森は、大和ハウスにとって最大の森づくりのフィールドです。この貴重で広大な資源を社会に貢献できる森にするため、専門家のアドバイスをいただきながら進めています。今回は、2人の専門家に「森と人との関係」、「これからの森との付き合い方」などお話をいただきました！



—プロフィール—

### 中静 透氏：

東北大学大学院生命科学研究科教授  
学術資源研究公開センターセンター長  
東北大学植物園園長

#### <主な研究>

原生林や熱帯雨林など様々な森林の動態  
についての研究

#### <受賞歴>

みどりの学術賞、日本生態学会賞など

### 原口 真氏：

(株)インターリスク総研  
マネージャー・主任研究員

#### <主な研究>

企業緑地による自然や地域との共生

#### <受賞歴>

環境経営学賞 優秀研究賞、  
屋上・壁面・特殊緑化コンクール屋上緑  
化大賞（共同受賞）など

**大和ハウス（以下 DH）：**国内外の様々な森を見られてきた中で、葉山の森の第一印象を聞かせてください。

**中静教授（以下 中静）：**とても良い状態に保たれていると感じました。様々な表情があると思いますが、私が特に魅力的に感じたのは、沢沿いのケヤキ林ですね。ケヤキは海岸近くの傾斜地で溪流沿いに自生するもので、ここではその本来の姿を見られました。このまま自然と立派な林になっていくと思います。尾根筋の常緑樹の林も発達した部分と若くて明るい部分があって魅力的ですね。



▲沢沿いのケヤキ林



▲明るい尾根筋



▲人工林

**DH：**昨今、人と森林との関わりが希薄になってきていると言われていますが、元来、人々の暮らしと森林はどのように関わり合ってきたのでしょうか。

①氷河期  
今より乾燥した気候で、  
草原と森林が入り混じっていた。



②氷河期終わり～江戸時代はじめ  
農業など、人のいとなみにより  
草原や里山が維持されてきた。



③江戸時代～戦後直後  
人口が増え、人は雑木を植える。  
雑木はエネルギー源！



④昭和30年代以降  
エネルギー革命で雑木は不要に。  
人が雑木林から離れていった。



同じころ、  
多くの森で  
スギ・ヒノキに  
植え替えられた



**中静：**氷河期が終わると雨が多くなり、仮に人間が何もしなければ、日本は国土全体が森林ばかりになったと思います。ですが、農業などの営みの中で草原や里山的環境が維持され、それぞれの環境に適した生きものと共存してきました。江戸時代になると、人口増で木材燃料の需要が大きくなり、薪や炭に適した雑木を植えて利用し始めます。里山に雑木林が多いのはこのためですね。昭和30年代には、エネルギー源が雑木から石油・ガスに代わり、人と森林の関係が希薄になっていきました。同時に、住宅不足の問題もあり、多くの森でスギ・ヒノキの人工林に植え替えられ、今の風景があるわけです。

**原口氏（以下 原口）：**葉山の森周辺の集落は、昭和30年代のエネルギー革命の影響が顕著で、里山の暮らしの変化が記憶されています。現在進行中の「ふるさと絵屏風プロジェクト」は、里山の暮らしの変化を絵屏風に描き起こすものですが、きっと今のタイミングでなければ、語りべがいなくなり、里山の暮らしぶりは分からなくなっていたと思います。

**中静：**里山は、雑木を伐って薪や炭にするというサイクルが20年くらいのスパンで成り立ち、比較的、持続可能な暮らしだと言えます。また、人工林は種類が単一で暗い森になるので、雑木林の方がより生きものが多様な生態系を持っています。雑木林に適応していた生きものにとっては、急激に環境が変わり棲みにくくなってしまいました。

**DH：森林の歴史を追っていくと、エネルギー革命以降の今のような暮らしは本当に一瞬なのだということがよく分かりますね。これらの変遷を踏まえた上で今後の目指すべき姿はなんでしょう？**



**原口：**まずは大和ハウスが地域の方と一緒に進められている「ふるさと絵屏風プロジェクト」を通して里山の暮らしを知り、自然の恵みを活用するノウハウを学び、次世代につないでいくことがとても大切です。葉山の森には、簡単な濾過装置で飲めるような綺麗な水があり、木を燃料として料理や暖が取れ、とても優れたサブシステムだと言えます。これらのサブシステムが実際に災害時に活用できると、画期的ですよ。

**中静：**これからの流れとして「生物多様性オフセット」という考え方が広がっています。原則として、開発で生物多様性に影響を与えないことが大切なのですが、仕方なく開発しなければならないとき、生物多様性の価値を下げてしまった分を、別の場所・もので高めて ±0 にしようという考え方です。日本ではまだあまり進んでいませんが、世界的に見ると50カ国以上が制度化して取り組んでいて、今後日本でもその考え方は不可欠になってくると思います。大和ハウスにとって葉山の森はオフセットの原資になります。日本でオフセットが常識化していけば、確実にメリットがありますし、むしろ業界を引っ張っていく存在になってほしいと思います。森づくりに対する指針をしっかりと持ち、活用の幅を広げていくと良いのではないのでしょうか。



**DH：里山と人々が歩んできた暮らしや、そこから今後継ぐべき環境とノウハウを葉山の森プロジェクトを通じて守り、活かしていきたいと思えます。貴重なお話、ありがとうございました。**

## 「葉山の森」周辺エリアの魅力⑬～こあじろ小網代の森～

プロジェクトの紹介と併せて周辺の名所・見所やプロジェクト関連人物・団体などをご紹介していきたいと思えます。第13回は「小網代の森」です。



### 小網代の自然—小網代の森—

「小網代の森」は、神奈川県三浦半島の先端に位置します。面積は70ha(東京ドーム15個分)の森で、関東圏で唯一、ひとつの流域がまるごと自然のまま残っている場所です。森と湿地と干潟と湾が道路などで分断されことなく繋がっています。

生きものの中には、海と川や、川と周辺の山林を行き来したり、淡水と海水の混ざる環境で暮らしたりするものがあります。様々な生きものを守るため、川だけでなく、周辺の山林や、海と川とが混ざる河口部の自然、湧水や水田など、幅広い水の環境を保全することが求められています。小網代の森は、2000種以上の生きものが確認され、絶滅危惧種も多数生息する、生物多様性の宝庫です。

#### ★小網代の森に行ってきました★

小網代の森は、三崎口駅からバスで約4分、バス停から徒歩で行ける気軽さが魅力のひとつ。適度に間伐された明るく広々とした湿地をゆっくり楽しめる、とても気持ちの良い森です。ぜひ行ってみてください！



▲整備された木道。安全に森を楽しみつつ、森が守られます。



▲手入れされた明るい森。



▲河口付近の干潟。カニを発見！

#### お知らせ

【活動予定】10月25日(土)：秋のクラフト体験、11月22日(土)：森の整備、12月14日(日)：冬のクラフト体験  
※実施内容は変更することがございます。ご興味のある方は、下記連絡先までお気軽にお問い合わせください。